

SONY

Sony IR Day 2015

デバイス分野

2015年5月27日

ソニー株式会社 執行役 副社長
デバイスソリューション事業、RDSプラットフォーム（R&D、共通ソフトウェア設計）担当

鈴木 智行

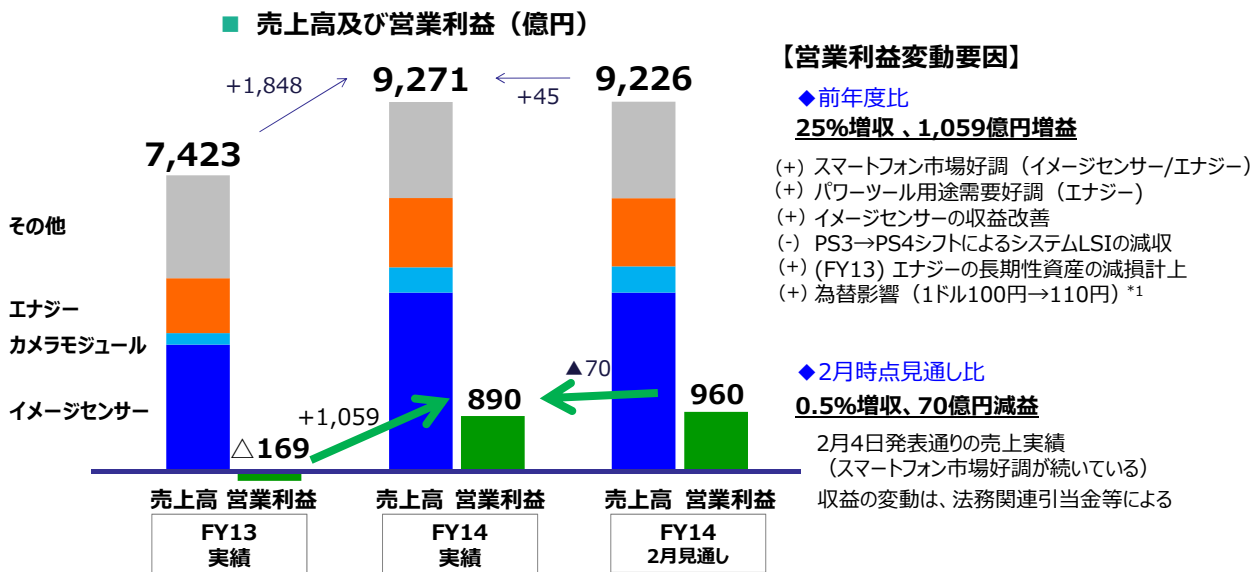
目次

デバイス分野

- 1. 2014年度の実績**
- 2. 2015年度の取り組み**
 - ・全体状況
 - ・イメージセンサー
 - ・まとめ

2014年度の総括

デバイス分野



・ 2013年度の営業損失は電池事業における長期性資産の減損321億円を含む
 ・ 売上高及び営業利益はデバイス分野から移管した純正車載オーディオ機器を含まないベース
 *1: 2014年度実績における通貨別売上高及びコストの金額を元に為替変動による前年度比影響額を試算

Sony IR Day 2015 | 68

イメージセンサーの強みを活かしたソニー商品（2014年11月以降）

デバイス分野



有効 24M画素 4K 35mmフルサイズCMOSイメージセンサー
 5軸手振れ補正機能搭載で三脚が必要だったシーンも
 手持ちでぶれを抑えたシャープな静止画、動画撮影が可能



世界初2/3型3板式4Kイメージセンサー搭載の4K/HDシステムカメラ
 HDで8倍の高精細なスーパースロー映像も実現



前機種種の1型から1/2.3型に小型化し
 セット小型化に寄与 18M画素



体感したリアリティをそのままに記録
 できる高精細・高音質な4K*アクションカム
 1/2.3型 12M画素

Xperia™ Z4

進化したフラッグシップモデル
 仲間との撮影やシェア、
 広角25mmフロントカメラ搭載
 高音質なワイヤレス音楽再生



【フロントカメラ】5M画素イメージセンサー
 【メインカメラ】1/2.3型 20M画素イメージセンサー
 セットを薄型化するモジュール技術
 (セットの厚さ Z3 7.4mm → Z4 6.9mm)

Sony IR Day 2015 | 69

1. 2014年度の実績

2. 2015年度の取り組み

- ・全体状況
- ・イメージセンサー
- ・まとめ



入口から出口までの技術を持つことでトータルの差異化を実現

イメージセンサー

信号処理

ディスプレイ



- ・高ダイナミックレンジ (HDR)
- ・高フレームレート (HFR)
- ・超高解像
- ・低照度
- ・高速AF
- ・偏光イメージング

- ・超解像度
- ・デプスセンシング
- ・物体認識技術
- ・赤外・マルチスペクトラム
- ・スタッカブルプロジェクター
- ・映像コーデック技術

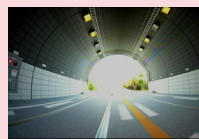
- ・短焦点プロジェクター
- ・ポータブルプロジェクター
- ・ピコプロジェクター
- ・Crystal LED Display
- ・SmartEyeglass
- ・レーザ光源

イメージセンサー技術の進化軸

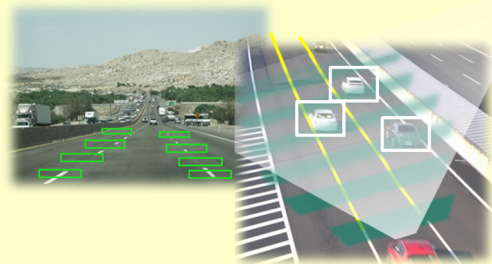
イメージングの深化

センシングへの進化

高ダイナミックレンジ
(High Dynamic Range)



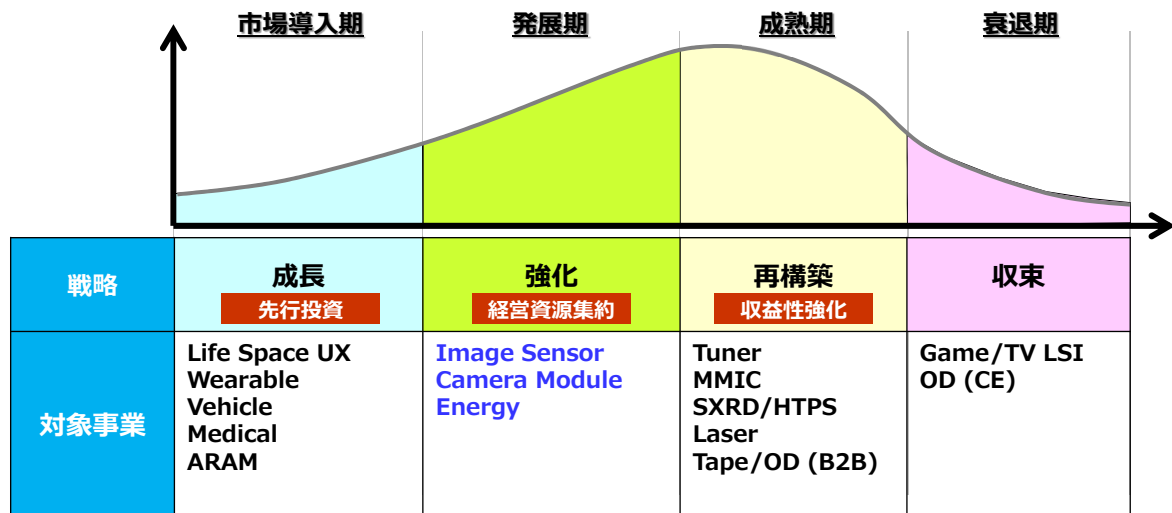
高フレームレート
(High Frame Rate)





方針	戦略
高収益体質を強化する	事業の“選択と集中” ・軸となる事業へ経営資源を集約する ・成熟領域の収益性を強化する 健全なアセットマネジメント／将来事業への先行投資
市場の先駆者であり続ける	“技術の差異化”と先行性 ・デバイス競争力を高めて競合を凌駕する ・技術開発、及び、新規技術の商品導入において先行する
セットの競争力の源泉となる	“デバイス・イノベーション” ・システムソリューションで顧客価値を高める ・戦略パートナー＆顧客との連携を強化する

プロダクト・ライフサイクル



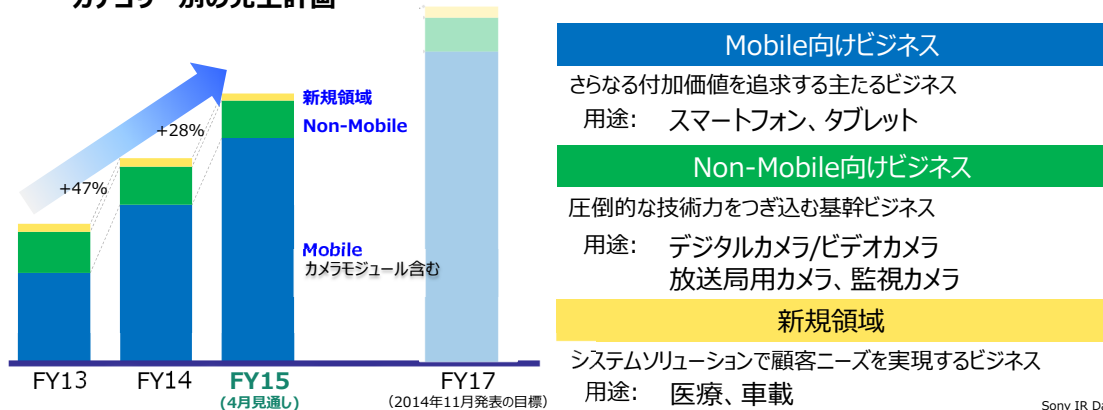
1. 2014年度の実績
2. 2015年度の取り組み
 - ・全体状況
 - ・イメージセンサー
 - ・まとめ

イメージセンサー事業状況

デバイス分野

- ・Mobile向け：堅調なスマートフォン市場で、技術力でシェアアップしていく。併せてキャパシティも増強
- ・Non-Mobile向け：縮小するAV向け市場でシェアアップ、監視領域需要増により2014年度同等の売上
- ・新規領域：医療向け、車載向けの着実な仕込を行う

カテゴリ別の売上計画



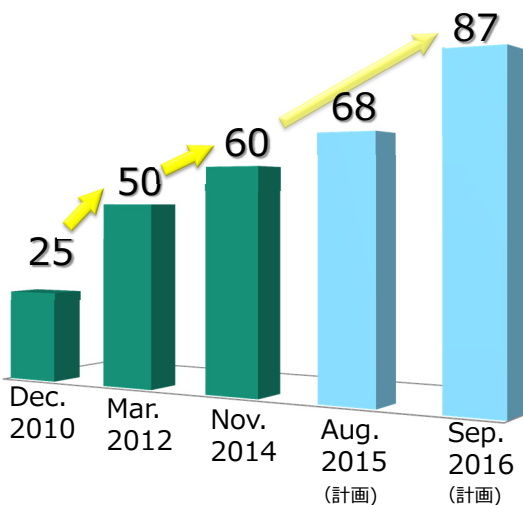
Sony IR Day 2015 | 78

イメージセンサーウェーハ生産能力推移

デバイス分野

- ・お客様のニーズにお応えできるよう積極的なキャパシティ増強を実行
- ・効率的な投資を行いROICを改善させていく

(単位：千枚/月) ※ 300mmウェーハ換算



<近年の設備投資>

- ・2010年 9月発表 熊本テクノロジーセンター 約 400億円
- ・2010年12月発表 長崎テクノロジーセンター 約1,000億円
- ・2012年 6月発表 長崎テクノロジーセンター 約 800億円
- ・2014年 1月発表 山形テクノロジーセンター 約 350億円
- ・2014年 7月発表 長崎/熊本テクノロジーセンター 約 350億円
- ・2015年 2月発表 長崎/熊本/山形テクノロジーセンター 約1,050億円
- ・2015年 4月発表 長崎/山形テクノロジーセンター 約 450億円

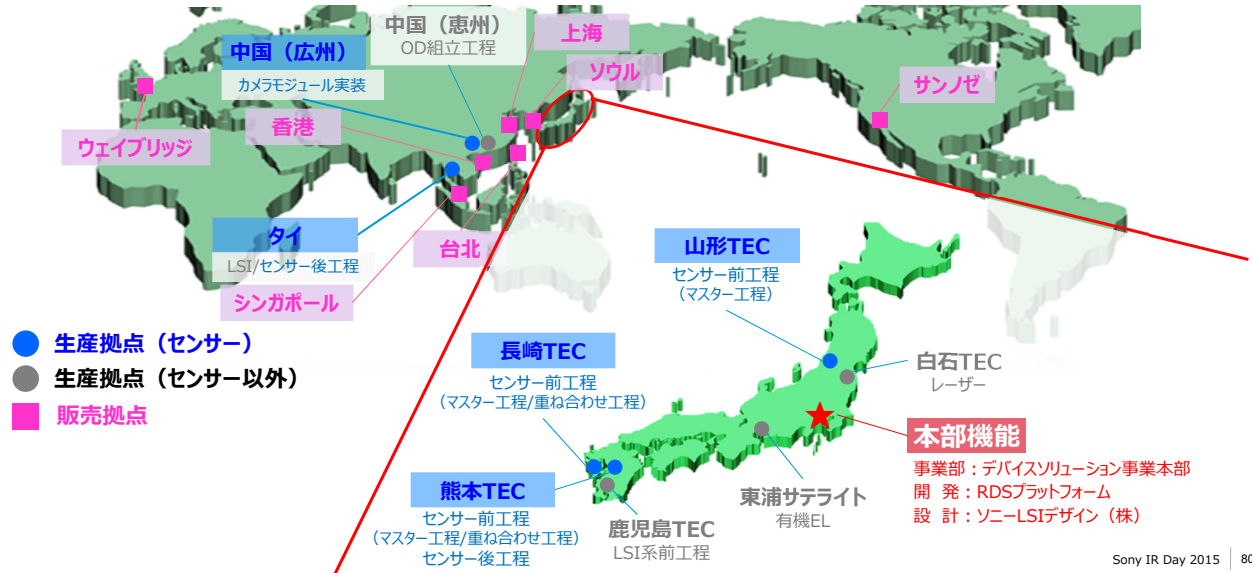


Sony IR Day 2015 | 79

事業拠点一覧（半導体系）

デバイス分野

ソニーセミコンダクタの国内3拠点で、高品質なイメージセンサーウェーハの安定生産を行い、世界にある7つの販売拠点を通じて、世界のお客様のご要望に応える体制



目次

デバイス分野

1. 2014年度の実績

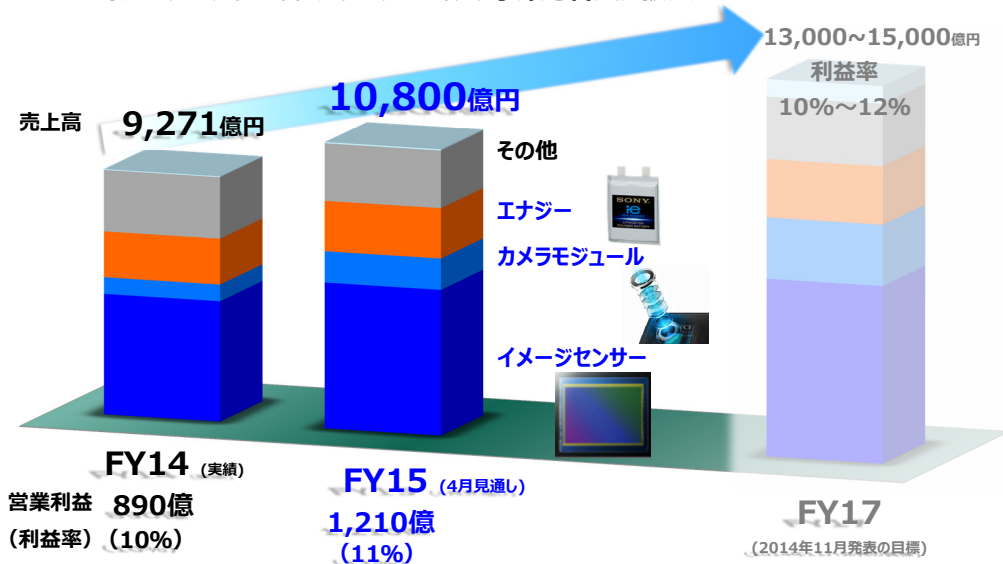
2. 2015年度の取り組み

- ・全体状況
- ・イメージセンサー
- ・まとめ

2015年度のビジネス状況

デバイス分野

- ・中期計画（2015-2017年度）の1年目として順調な滑り出し
- ・イメージセンサー、カメラモジュールの事業を着実に拡大

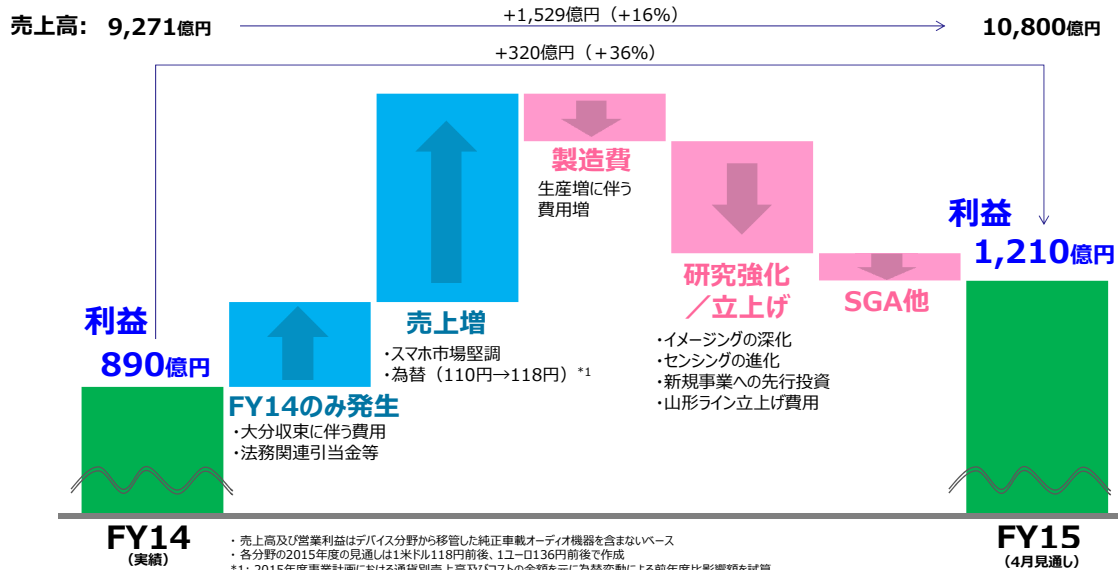


Sony IR Day 2015 | 82

業績推移（2014年度→2015年度）

デバイス分野

- ・営業利益は前年度比+320億円増加し、営業利益率11%確保の見通し
- ・中長期のシナリオにあわせ成長／強化領域へ積極的に経営資源を集中させる



・売上高及び営業利益はデバイス分野から移管した純正車載オーディオ機器を含まないベース
・各分野の2015年度の見通しは1米ドル118円前後、1ユーロ136円前後で作成
*1: 2015年度事業計画における通貨別売上高及びコストの金額を元に為替変動による前年度比影響額を試算

83

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直し改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済情勢、特に消費動向
- (2) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上、生産コスト、又は資産・負債を有する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
- (3) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス（テレビ、ゲーム事業のプラットフォーム、ならびにスマートフォンを含む）をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (4) 技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力及びその時期
- (5) 市場環境が変化する中でソニーが事業構造の改革・移行を成功させられること
- (6) ソニーが金融を除く全分野でハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、インターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (7) ソニーが継続的に、研究開発に十分な資源を投入し、設備投資については特にエレクトロニクス事業において投資の優先順位を正しくつけて行うことができること
- (8) ソニーが製品品質を維持できること
- (9) ソニーと他社との買収、合併、その他戦略的出資の成否を含む（ただし必ずしもこれらに限定されない）ソニーの戦略及びその実行の効果
- (10) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付けの低下
- (11) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
- (12) 係争中又は将来発生しうる法的手続き又は行政手続きの結果
- (13) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否
- (14) （市場の変動又はボラティリティを含む）日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
- (15) 事業活動の混乱や財務上の損失の発生などを含むサイバーセキュリティに関するリスクを予測・管理するための取り組み
- (16) 大規模な災害などに関するリスク

ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。